

子どもとともに進めるまちづくり

子どもの参加 ガイドライン

目次

- | | |
|------------------|-----|
| ① 子どもの参加とは | 2P |
| ② 子どもの参加のステップ | 5P |
| ③ 札幌市が進める子どもの参加 | 9P |
| ④ 子どもと楽しく取り組むために | 11P |
| ⑤ 子どもの参加チェックシート | 12P |

- (参考) 子どもの権利条例 (抜粋) 13P
- 相談窓口・お役立ち情報 裏表紙



子どもの権利条例 があるまち The Rights of the Child **ざっぽる**

札幌市では、平成21年4月に「札幌市子どもの最善の利益を実現するための権利条例」を施行しました。この条例は、子どもにとって大切な権利の一つ、「参加する権利」について、子どもの声をまちづくりに生かすと共に、子どもが将来を担う大人に成長できるよう、参加の機会を積極的に設けることを規定しています。

最近では、地域などのさまざまな取組に、大人と一緒に子どもが関わる場面も増えてきていますが、一方では、どのように進めたらよいのか戸惑うとの声も寄せられています。

子どもの参加は、「こうしなければならない」といった決まった方法はなく、取組の内容や子どもの成長・発達段階などに応じて、工夫しながら無理のない方法で、少しずつ進めていくほかありません。

この冊子では、子どもの参加の代表的な事例や考え方のポイントなどを、整理してみました。これを参考に、皆さんの地域で行われているさまざまな取組に、子ども参加の機会を設けることはできないか、もう少し工夫ができないか、などについて話し合うきっかけにさせていただきたいと思います。

子どもの参加の意義

- 子どもの視点をまちづくりに生かす
(子どもも市民の一員、子どものことはまず子どもに聞いてみる)
- 将来のまちづくりを担う子どもを育成する
(社会に参加する体験の機会をできるだけ多く提供する)

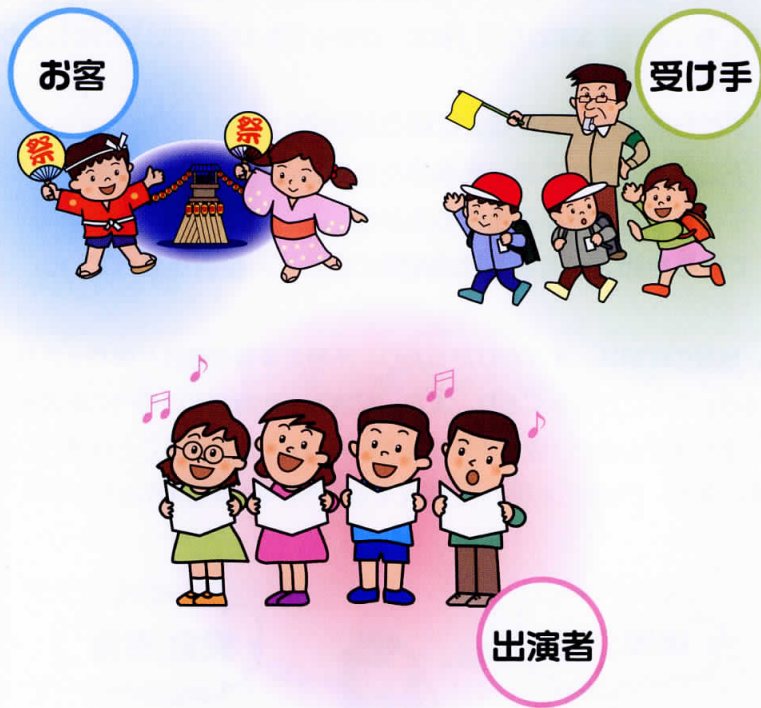
さあ、皆さんも子どもと一緒に
まちづくりに取り組んでみませんか？

1 子どもの参加とは

■子どもとまちづくり

地域では、そこに暮らす人々が助け合い、豊かな暮らしを実現するために、さまざまな取組（まちづくり）が行われています。そして、子どもに関係する取組も数多く実施されています。

そうした取組において、子どもはどのように関わっているのでしょうか。



おそらく、「催事を楽しむ」「行事で発表する」「サービスを受ける」など、与えられる（してもらう）側になることが多いのではないのでしょうか？

もちろん、まちづくりの主たる担い手は大人ですので、それはふつうのことかもしれません。それに、子どもたちが様々な活動に参加（お客・出演者・受け手）すること自体は、子どもの成長にとってとても貴重な機会になります。

■まちづくりへの参加

家庭では、子どもであっても、例えば、毎日の食事の準備や後片づけなど、家族の一員としての役割を担っていることが多いと思います。また、家族旅行をするときには、行程を一緒に考えたり、準備をすることもあられるでしょう。学校でも、児童会や生徒会をはじめ、学年に応じてさまざまな役割を担っていたり、主体的な取組が行われていたりします。

同じように、地域においても、子どもはコミュニティを構成する一員であると考えたとき、もっと多様な関わり方（参加）があってもよいのではないのでしょうか？

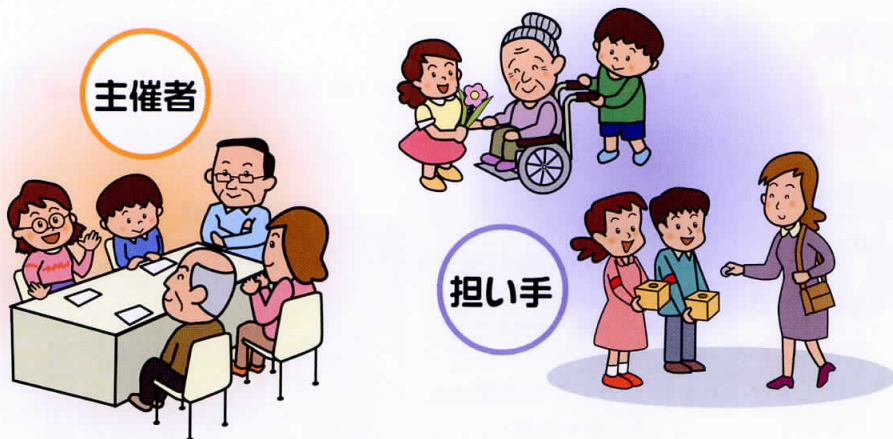
- ・子どもは決められたことに従うだけ？
- ・子どもがコミュニティを自分たちのこととして捉える機会は？
- ・子どもにもできることがあるかも
- ・できる範囲で（成長・発達段階に応じて）役割があっている

実際、地域の取組は、大がかりだったり、不特定多数の住民が関わったり、安全上の配慮が必要なことも多くあり、また、保護者や教師などの専門の指導者がいるわけではありませんので、家庭や学校などと同じように進めることは難しいかもしれません。また、「失敗したら…」と考えてしまうかもしれません。



■まちづくりは人づくり

そうした考えを少しでも取り払い、今行っている取組に、そこに住む子どもたち自身が参加し、まちづくりの担い手になる、そういう視点を加えてみることはできないでしょうか。



大人と子どもが一緒に考え、一緒に汗を流す。そうした取組を通して子どもが自信をつけ輝きを増し、大人もそれを肌で感じながらますます元気になっていく。

札幌市内ではそんな取組が始まっています。



○子どもも、いろいろな関わり方があっていい。

○子どもを当事者（働きかける側、考える側、つくる側）に

参加のポイント

「面白さ」「大切さ」の実感

- ★子どもが、つくる喜び、汗をかく喜びを実感する。（たくさんの人が喜んでくれた、こんなふうには工夫できた、変えることができた）
- ★子ども自身が企画に加わることで、子どもが楽しめる企画、やりがいのある企画になる。
- ★成長に応じた役割を用意することで、子どもの継続した参加につながる。

2 子どもの参加のステップ



子どもの参加の具体的な流れ
「学校との連携による地域課題の解決」

START
スタート

皆さんと一緒に、子どもの参加を考えてみましょう。

ステップ
1

企画・検討

- ①子どもと一緒に何ができるか
- ②対象となる子どもの範囲
(学年や人数、募集の方法)
- ③参加の手法
(ワークショップ、企画会議、アンケート、街歩き等)

地域関係者

- 「今年は、地区の春の清掃を、子どもたちと一緒に行ってはどうだろう」
- 「どのように進めようか」
- 「学校でもボランティアで清掃を行っているようだね。学校に相談してみよう」



日頃の活動で子どもと一緒にできることはないでしょうか。まちづくりセンターで、その地域の子どもの取組事例を聞いたり、進め方のアドバイスなどを受けることもできます。

ステップ
2

事前調整

- ①関係者への協力依頼
- ②子どもの募集
(学校、関係団体を通して等)

学校関係者

- わかりました。生徒会で話し合ってみるようにならします
- 「〇〇ということだけど、どうでしょうか」
- 「ぜひやりましょう」(生徒会)



「生徒たちもぜひ一緒にということでした。近々、生徒の代表者と一緒に打ち合わせをお願いします。」

ステップ 3

実施準備

(子どもが行うことも含む)

- ①趣旨説明・動機づけ
- ②具体的な検討、準備
- ③安全対策・保険加入等の検討



子どもが担う部分については、子どもが責任を持って遂行できるように支援を行うことが大切です。

打ち合わせ

- 「日時は…」「範囲は…」
- 「必要物品は各自持ち寄りましょう」
- 「保護者への案内や〇〇は…」
- 「生徒へは、私たち生徒会が、放送とポスターで呼びかけます」

ステップ 4

イベント当日

- ①事前に決めた役割分担
- ②当日のスケジュール管理
- ③安全確保
(大人の配置、危険箇所の説明等)
- ④終了報告



事業終了の報告や検証段階まで、子どもの参加を丁寧に行いましょう。こうしたことが、次の機会の参加に対する動機づけにもなります。

実施前

- 「各班ごとに、生徒と地域の皆さんで協力して行ってください」

実施後

- 「きれいになったね」
- 「〇kgのゴミが回収できました」

ステップ 5

事後の検証・反省会

- ①結果の検証、アンケートのまとめ
- ②改善、改良等

- 「アンケート結果がまとまりました」
- 「来年に向けて改善の必要な点は？」
- 「秋の〇〇も一緒にどうでしょうか」
- 「今日の内容は、生徒全員にお知らせします」

GOAL ゴール



環境美化にリサイクル、安全安心なまちづくり、街の魅力発見など、子どもと一緒に取り組めることによって、意外とありそうですね。

子どもの参加の具体的な流れ 「児童会館との連携によるイベント実施」



今度は、イベントについて一緒に考えてみましょう。

START
スタート

ステップ
1

企画・検討

- ①子どもと一緒に何をするか
- ②対象となる子どもの範囲
(学年や人数、募集の方法)
- ③参加の手法
(ワークショップ、企画会議、アンケート、街歩き等)

地域関係者

- 「〇〇イベントの今年の企画には、子どもたちからも、アイデアを出してもらおうか」
- 「いつも参加してもらっている児童会館の子どもたちに聞いてみよう」



進め方には、次のような方法が考えられます。

- ・全体を大人が考えて、子どもに任せる部分を決める
- ・全体を大人と子どもと一緒に考える
- ・全体のフレームを大人が示し、子どもが内容を考える

ステップ
2

事前調整

- ①関係者への協力依頼
- ②子どもの募集
(児童会館、関係団体を通して等)

児童会館関係者

- 「面白そう。ぜひやりたい」
(児童会館子ども運営委員会)

「子どもたちは
ぜひ一緒にという
ことでした。」



「それでは、近々、子ども
たちと打ち合わせる機会を
設けていただけますか」



連携先としては、学校や児童会館のほか、子ども会などの団体、児童福祉施設などが考えられます。

ステップ 3

実施準備

(子どもが行うことも含む)

- ①趣旨説明・動機づけ
- ②具体的な検討、準備
- ③安全対策・保険加入等の検討

打ち合わせ

- 「今年はこのような内容を考えています」
- 「小さい子どもが楽しめるコーナーもあった方がいい」
- 「なるほど。どんな内容なら喜んでもらえるかな」
- 「僕たちで少し考えてみる」



当日の作業を割り振るだけではなく、事前打ち合わせへの参加、企画段階のアイデア出しなど、子どもが少しでも主体的に関わることができないか考えてみましょう。

打ち合わせなどで初めて顔を合わせる際には、話しやすい雰囲気づくりとして、簡単なレクリエーション・手遊びなどの「アイスブレイク」を取り入れることも行われています。

ステップ 4

イベント当日

- ①事前に決めた役割分担
- ②当日のスケジュール管理
- ③安全確保
(大人の配置、危険箇所の説明 等)
- ④終了報告

当日

「受け持ちブースの運営」
「片づけ」

ステップ 5

事後の検証・反省会

- ①結果の検証、アンケートのまとめ
- ②改善、改良 等

- 「皆さん、今日はどうだった？」
- 「大勢のお客さんが来てくれてうれしい」
- 「スムーズにいかなかったところも少しあったけど、協力し合って何とかできた」
- 「来年は、こうしたほうがもっと楽しくなると思う」
- 「僕は来年中学生だけど、手伝いに来るよ」



既存の行事も、子どもと一緒に取り組むと、イベントとしての可能性が一層広がります。

事業のポイントとして、スムーズな運営、事業内容の充実といった視点だけではなく、子ども自身が満足感や充実感を得られるかどうかという視点も大切です。

GOAL ゴール

3 札幌市が進める子どもの参加

◆子どもの意見を生かした施設づくり

(児童会館・ミニ児童会館子ども運営委員会)

札幌市にあるすべての児童会館・ミニ児童会館では、「子ども運営委員会」を設置し、子どもたち自身が、会館利用に当たってのルールづくりや行事の企画運営などを行っています。

運営委員会や地域との交流事業など、会館で行っている取組は、自分たちの居場所づくりやまちづくりを実践する大切な機会となっています。



運営委員会では、お菓子づくりやゲームコーナーなどみんなで楽しく交流できるイベントも企画、実施しています。

話し合いでは、みんなで色々な意見を出し合い、協力して考えをまとめていきます。



平成22年11月20日に開催した「子どもの権利フェスタ」では、児童会館の子どもたちが、日頃の取組について発表しました。



◆市政への子どもの参加

札幌市のさまざまな取組について、できるだけ子どもが参加する機会を設け、子どもの視点を市政に生かすとともに、子どもが札幌市のまちづくりについて考える機会としています。

円山動物園スノーフェスティバル（平成23年2月 環境局）



子どもたちが、「バーチャル雪まつり」と称してインターネットを使って話し合った雪像のアイデアやテーマを、実現させています。

第2次札幌市子どもの読書活動推進計画の策定（平成22年9月 教育委員会）

「札幌市子どもの読書を考える市民会議（子どもチーム）」を設置するなど、子どもが計画の検討に関わりました。





4 子どもと楽しく取り組むために

子どもと上手に関わるためのアドバイス


日頃から子どもに関わって活動をされている方に聞いてみました。


Q1 事業の進め方などについて大切なことは何ですか？


 子どもが何かを決めたり作業したりするのは思った以上に時間がかかるので、余裕のある期間設定が大事。

 内容を詰め込んでどれも中途半端になるより、「これだけは」ということに絞ることが、結局は活動の充実や満足感につながると思います。


Q2 子どもとのコミュニケーションについて、どのようなことに気をつけるとよいでしょうか？


 できること、できないこと、やってほしいことなど、正確に、そしてできるだけ具体的に伝えることが大事だと思います。


 何気ない会話の中でポロっと出る子どもの発想にハッとさせられるときがある。そういう雰囲気時には必要かも。

 話を途中まで聞いて分かった気になり、最後まで聞くのが面倒になって「それはねー」と、大人が言ってしまうと、あまり話してくれなくなるかもしれません。最後まで聞くのってなかなか難しいですね。


Q3 一過性で終わらずに継続して取り組むために大切なことは？

 結果にとらわれずに、子どもと一緒に取り組むことを自分自身で楽しんでいます。お膳立てされたものばかりだと、一定の年齢を過ぎたら飽き足らなくなってしまう。子どもが満足感や充実感を得られるよう、自分たちで工夫できる要素が何かあるとよいと思います。

 興味や関心、得意分野もさまざま。気分や体調にも左右されます。いろいろな子どもがいても、皆が楽しめる工夫が大事。

 できなかったことや失敗したことより、事業を通して子どもが成長できたことにしっかりと目を向けること。

Q4 そのほか、これだけは気をつけたいことは？

 子どもは夢中になると、周りが見えなくなるので、安全に気を使うことに、十分すぎることはないと思います。

5 子どもの参加チェックシート

1	子どもが意義や役割を理解している	<input type="checkbox"/>
2	子どもが担い手として又は主体的に取組に関わる場面がある	<input type="checkbox"/>
3	年齢や成長・発達段階、意欲に応じて関わるができる工夫がされている	<input type="checkbox"/>
4	子どもが参加しやすい雰囲気づくりがなされている	<input type="checkbox"/>
5	子どもが決められた役割を果たせるよう、サポートがなされている	<input type="checkbox"/>
6	子どもが楽しく、やりがいを感じながら活動している	<input type="checkbox"/>
7	無理のないスケジュールが立てられている	<input type="checkbox"/>
8	安全管理がしっかりできている	<input type="checkbox"/>
9	子どもの意見やアイデアにきちんと対応している	<input type="checkbox"/>
10	取組について子ども自身が振り返る機会がある	<input type="checkbox"/>

他にも、自分たちの取組の中で、工夫すべき点や配慮が必要な点がないか、話し合ってみましょう。

札幌市子どもの最善の利益を実現するための権利条例 (抜粋)

平成20年11月7日
札幌市条例第36号

前 文

すべての子どもは、未来と世界へ羽ばたく可能性に満ちた、かけがえない存在です。

日本には、平和な社会を築き、基本的人権を大切にする日本国憲法があります。さらに、日本は、世界の国々と、子どもの権利に関して条約を結び、誰もが生まれたときから権利の主体であり、あらゆる差別や不利益を受けることなく、自分らしく、豊かに成長・発達していくことを認め、これを大切にすることを約束しています。

子どもは、子どもが持つ権利を正しく学び、感じたこと、考えたことを自由に表明し、自分にかかわることに参加することができます。こうした経験を通して、自分が大切にされていることを実感し、自分と同じように、他の人も大切にしなければならないことを学びます。そして、お互いの権利を尊重し合うことを身につけ、規範意識をはぐくみます。

大人は、子ども自身の成長・発達する力を認めるとともに、言葉や表情、しぐさから、気持ちを十分に受け止め、子どもの最善の利益のために、子どもが直面することについて、ともに考え、支えていく責任があります。

子どもの権利を大切にすることは、子どもが自分の人生を自分で選び、自信と誇りを持って生きていくように励ますことです。それによって子どもは、自ら考え、責任を持って行動できる大人へと育っていきます。

子どもは、社会の一員として尊重され、大人とともに札幌のまちづくりを担っていきます。子どもが参加し、子どもの視点に立ってつくられたまちは、すべての人にとってやさしいまちとなります。

私たちは、こうした考えのもと、ここに、日本国憲法及び児童の権利に関する条約の理念に基づき、子どもの権利の保障を進めることを宣言し、この条例を制定します。

第4節 参加・意見表明の機会の保障

(子どもの参加等の促進)

第24条 市は、市政等について、子どもが意見を表明し、参加する機会を設けるよう努めるものとします。

2 施設設置管理者は、施設の行事、運営等について、子どもが意見を表明し、参加する機会を設けるよう努めるものとします。

3 市民は、地域の文化・スポーツ活動等について、子どもが意見を表明し、参加する機会を設けるよう努めるものとします。

(市の施設に関する子どもの意見)

第25条 市は、子どもが利用する市の施設の設置及び運営に関して、子どもの参加について配慮し、適切な方法で子どもの意見を聴くよう努めるものとします。

(審議会等への子どもの参加)

第26条 市は、子どもにかかわる事項を検討する審議会等に関して、子どもの参加について配慮するよう努めるものとします。

2 前項の審議会等は、適切な方法で子どもの意見を聴くよう努めるものとします。

(子どもの視点に立った情報発信等)

第27条 市民及び市は、子どもの参加の促進を図るため、子どもにかかわる施策、取組等について、子どもが理解を深め、自分の意見を形成することができるよう、子どもの視点に立った分かりやすい情報発信等に努めるものとします。

相談窓口・お役立ち情報

■主な少年団体

団体活動やグループ活動への参加を通し、子どもが自主的な社会参加や連帯意識に目ざめ、社会の一員として自覚を持つよう促すことは、子どもの豊かな成長にとって、極めて大きな意味を持っています。

○札幌市内で活動する主な少年団体

- ・社) 札幌市子ども会育成連合会 (011-211-3015)
- ・財) 札幌市体育協会札幌市スポーツ少年団 (011-511-7787)
- ・日本ボーイスカウト北海道連盟札幌地区委員会 (011-823-7121)
- ・社) ガールスカウト日本連盟北海道支部札幌地区協議会 (011-221-4811)
- ・社) 日本海洋少年団連盟札幌海洋少年団 (011-737-6595)
- ・財) 交通道德協会札幌鉄道少年団 (011-221-2535)

○札幌市における少年団体の育成、活動の促進などの取組について

札幌市子ども未来局子どもの権利推進課 (011-211-2942)

■市民活動の相談窓口

○市民活動サポートセンター

札幌で活動しているボランティアやNPO団体など、さまざまな分野の市民活動団体を支援する総合拠点です。

札幌市北区北8条西3丁目 札幌エルプラザ2階 TEL: 011-728-5888

○まちづくりセンター (所在地等は下記アドレスで検索できます)

地域のまちづくり活動の拠点として市内87か所に設置。防犯・防災、環境美化など、地域の取組の支援などを行っています。

http://www.city.sapporo.jp/shimin/jichi/machizukuri/machicen/machicen_01.html

■まちづくり情報ウェブサイト

○さっぽろまちづくり総合情報ポータル

活動事例やイベント情報、団体の情報などを発信し、市民の活動を支えるための、市民による総合情報サイトです。

<http://www.shimin.sl-plaza.jp/>

発行：平成23年6月

札幌市子ども未来局子ども育成部子どもの権利推進課

〒060-0051 札幌市中央区南1条東1丁目大通バスセンタービル1号館3階

電話：011-211-2942 ファックス：011-211-2943

電子メール：kodomo.kenri@city.sapporo.jp

ホームページ：子どもの権利のページ

<http://www.city.sapporo.jp/kodomo/kenri/>

